

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.21 2012年11月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ラドビジョン ジャパン：オールインワン型のビデオ会議専用端末、アバイア UC ソリューションとの連携、BEEHD の全 OS 対応、アンリツと共同での LTE 向け統合試験シュミレータを発表

ラドビジョン ジャパン株式会社(東京都台東区)は、(1)オールインワン型のビデオ会議専用端末機「SCOPIA XT Meeting Center(スコピアミーティングセンター)」、(2)アバイア UC ソリューションとの連携、(3)端末開発用フレームワーク「BEEHD」の全 OS 対応、(4)アンリツ株式会社(神奈川県厚木市)と LTE 向け統合試験シュミレータ、を発表した。(取材:10月10日/11日)

これらの発表は、2012年10月10日から12日に東京ビックサイトで開催される IT pro EXPO 2012 において日本アバイア株式会社と共同で展示された。写真は、同社ブース。

(1)SCOPIA XT Meeting Center:コーデックとカメラに55インチ 1080p のシングルもしくはデュアルモニター、そして、それらの支えにスタンドを使ったシステム。同社のハイエンドビデオ会議専用端末機「SCOPIA XT5000」がスタンドに格納されている。モニターについては、ユーザがメーカーを選定することができる。

品質予測ができないネットワーク環境においても、ビデオ会議映像の品質を保つ H.264SVC および H.264 ハイプロファイルを標準実装している。また、フルHD 1080p/60fps でのライブビデオおよびコンテンツのデュアルストリーム(H.239)、CD 品質 20kHz 音声などを実現している。

加えて、ラドビジョンの MCU(多地点制御装置)「SCOPIA Elite」につなげることでより大規模なビデオ会議システムが実現できるほか、他社製の MCU や専用端末機との接続も

可能だ。

その他、オプションとして、9 ウェイの内蔵 MCU、iPad マルチタッチコントロールを備える。



SCOPIA XT5000 (ラドビジョン ジャパン資料)



ITpro EXPO : SCOPIA XT5000 フルHD1080p/60fps 対応



ITpro EXPO : アバイアの Avaya Flare とラドビジョンビデオ会議システムとの相互接続デモ



ITpro EXPO：端末開発用フレームワーク BEEHD のデモ



ITpro EXPO：LTE 向け統合試験シュミレータなど紹介

(2)アバイア UC ソリューションとの連携:ラドビジョン製のソフトウェアビデオ会議システム「SCOPIA Desktop」とアバイアのユニファイドコミュニケーション端末「Avaya Flare(アバイアフレア)」との相互接続のデモンストレーションも行われた。この接続デモは、今年の6月にアバイアによるラドビジョン社買収完了以来、日本では初公開となる。

(3)端末開発用フレームワーク BEEHD は、システム開発者向けに同社が提供している開発ツールで、Windows、Android、Linux 対応デバイスやチップセットによって3種類のツールを提供している。今回の発表では、iOS 対応のほか転送など VoIP 系の機能を強化した。

「ビデオ会議を目的とした開発ツールだが、音声に対するニーズもまだ根強い。そこで iOS リリースに合わせて音声系も強化した。当社のソリューションを活用すれば端末開発だけでなくクラウドプラットフォームの開発も可能だ。」(ラ

ドビジョン)iOS 対応版は11月末リリース。来年1月には、LTE や WiFi にも対応する予定という。

(4)アンリツとラドビジョンによる LTE 向け統合試験シュミレータ共同展開:アンリツのシグナリングテスト「MD8430A」とラドビジョンの試験シュミレータ「PROLAB」を組合せ、音声・ビデオ通信端末開発者、サービス事業者向け LTE 統合試験シュミレータをワールドワイドに共同で提供していくと発表(4月)。

既に欧米アジアで提案活動を共同で行っており、ラドビジョンによると最近日本国内でも大手通信キャリアからの採用が決まったという。PROLAB は、最近の LTE の動きにあわせ、従来の IMS 向けからバージョンアップを行い今年 LTE に対応した。

VTV ジャパン、Phoenix Audio Technologies 社製会議用マイクスピーカーの販売開始

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、Phoenix Audio Technologies 社(米国カリフォルニア州)と国内販売代理店契約を結び、同社の会議用マイクスピーカー「Duet(デュエット)」と「Quattro3(クワトロスリー)」の販売を11月7日より開始した。(11月7日)

Duet と Quattro3 は、PC はもちろん電話機、スマートフォン、タブレット、テレビ会議専用機などさまざまな会議システムに使用できる会議用マイクスピーカー。



Phoenix Audio Technologies 社製会議用マイクスピーカー (VTV ジャパン資料)

Duet は、USB インターフェイスを標準搭載し、無(全)指向性高性能マイクを搭載したコンパクトでリーズナブルなエン

リーシリーズ。

高出力スピーカー、全二重音声通話、エコーキャンセリング機能、ノイズサプレッション機能(ノイズを低減させる)、プラグアンドプレイ、オートゲインコントロール機能などの特長がある。Duet シリーズは、3モデル提供する。

- (1)「Duet PCS MT202-PCO」:Web 会議に最適な PC 端末対応ベーシックモデル。価格は、39,000 円(税抜き)。(2)「Duet VCA MT202-VCA」:テレビ会議専用機に接続可能な PC/テレビ会議専用端末対応モデル。価格は、49,000 円(税抜き)。(3)「Duet EXE MT202-EXE」:電話と接続して音声会議システムとして利用可能な PC/アナログ回線対応モデル。価格は、49,000 円(税抜き)。

Quattro3 は、同じく USB インターフェイスを標準装備し、4 個の超指向性マイクを搭載したハイエンドシリーズ。最大 15 台をディジーチェーンで接続することができ、中規模の会議までサポートする。Quattro3 では、3 モデルがある。

その他、全二重音声通話、エコーキャンセリング、ノイズサプレッション、プラグアンドプレイ、De-Reverb 機能(会議室内の残響を除去する)、オートゲインコントロール機能などの特長がある。

- (1)「Quattro3 USB MT301」:Web 会議に最適な PC 端末対応ベーシックモデル。価格は、84,000 円(税抜)。(2)「Quattro3 Smart MT303」:スマートフォンやタブレット端末に接続可能な PC/マルチデバイス端末対応モデル。価格は、95,000 円(税抜)。(3)「Quattro3 Power MT304」:ディジーチェーンでの接続に必要な電源供給機能を搭載した拡張ユニット。価格は、90,000 円(税抜)。

楽墨堂、Full HD 多地点対応テレビ会議システムの新バージョンで指定トーク機能を追加

株式会社楽墨堂(京都府宇治市)は、同社が販売する Full HD 多地点対応テレビ会議システム「FRAME」の新バージョン ver2012.11.4.6 をリリースした。(11 月 4 日)

新バージョンでは、「指定トーク機能」が追加された。指定トーク機能は、多地点テレビ会議に接続している参加者

の中で、特定の拠点の音声をオン/オフすることで指定した参加者間でグループ分けが行える機能。



Full HD 多地点対応テレビ会議システム「FRAME」-- 9分割画面での多地点会議例 (楽墨堂 資料)

この機能を使うと、たとえば、A から G まで 7 拠点で多画面分割による多地点会議を行っている場合において、全員の映像を見ながらも、音声のやりとりについては、A・B・C の間で会議をしながら、並行して、D・E・F・G の間で別の会議が行えるようになる。

その際に、A・B・C 拠点から見ると、A・B・C の拠点は指定トークがそれぞれオンになるが、その他の D・E・F・G はオフとなり、音声のやりとりは聞こえない形になる。

つまり、映像は全員で共有する形ではあるが、その中で音声のやりとりをグループ分けすることで、ひとつの会議室でありながら2つの会議グループを走らせるといったことができるのがこの指定トーク機能だ。

この機能は、工場も含めた多地点会議の際、周りの音が騒がしい工場の音を消して映像だけを見ながら他の参加者同士で会話をしたいというユーザの要望から生まれた新機能という。

FRAME 本体価格は、オープンプライス(参考価格は税別 38 万円)となっているが、1拠点あたり1つの FRAME 本体が必要。ただし、導入にあたっての費用は初期費用のみ。詳細は同社に確認要。

FRAME は、運営コストの面から優れたシステムで、同社の得意で実績のある CG、画像処理、インターネットストリーミング、ロボット制御の技術が活かされているという。

楽墨堂は、FRAME を 2011 年 5 月 31 日に発売し、2012 年 3 月 31 日には 16 拠点まで対応した多地点版をリリース。

さらに5月14日には多地点接続時分割画面の拡大縮小(150%~50%)に対応した。一方、4月には札幌とシンガポール間での接続実験にも成功しFRAMEの実績を積み重ねている。

楽墨堂は、テレビ会議システム、各種マルチメディア関連ソフト、CG 関連、スマートフォンアプリ開発・販売、ロボット製作、ロボット制御システム開発などを行っている。なお、テレビ会議システムについては1997年から開発実績がある。

オーシャンブリッジ、Web 会議機能「ISL Groop」オンプレミス版の提供開始

株式会社オーシャンブリッジ(東京都渋谷区)は、リモートコントロールツール「ISL Online(アイエスエル・オンライン)」のWeb 会議機能最新版「ISL Groop 2.4.2(アイエスエル・グループ)」を10月16日より提供開始した。(10月16日)

ISL Groop は、2012年5月よりクラウドライセンス版の提供を開始。1ライセンスで10台のPCが参加可能というところが特長のひとつで、今回の最新版でオンプレミスライセンス版にも対応した。これにより、これまでオンプレミス環境でISL Onlineのヘルプデスクやリモートアクセス機能を利用していたユーザも同ライセンスでWeb 会議機能を利用できるようになった。

ISL Online は、リモートコントロール機能を中心に、ヘルプデスク機能やWeb 会議機能を1つのライセンスで利用できるオールインワンパッケージ。現在、世界100カ国、10万社以上で利用されている。国内では700社以上の実績があるという。

価格について。ISL Online オンプレミス基本ライセンス:60万円(税別、以下同)、オンプレミスベーシック(追加)ライセンス:30万円、オンプレミスエンタープライズライセンス:250万円、オンプレミスコーポレートライセンス:500万円。詳細は同社に確認要。

ビジネス動向-国内

ブイキューブのWeb 会議サービス、ベリサインの「Symantec Validation & ID Protection」に対応、提供開始は来春予定

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)と日本ベリサイン株式会社(東京都中央区)は、ブイキューブが提供する「V-CUBE ミーティング」が、ベリサインが提供するワンタイムパスワード(OTP)認証「Symantec Validation & ID Protection(以下、VIP)」に対応したと発表。本サービスの提供開始時期は来春を予定している。(10月9日)



V-CUBE ミーティング (ブイキューブ 資料)



Symantec Validation & ID Protection ログイン画面 (ブイキューブ資料)

VIP とは、ベリサインのウェブサイトの説明によると、なりすましによる不正アクセスから重要な情報資産を守るために強固な認証を提供するベリサインのクラウド型セキュリティサービス。

このVIPにV-CUBEミーティングが対応することで、VIPのワンタイムパスワードと、V-CUBEミーティングのID・パスワード

ドを併用するセキュリティ的に強固な二要素認証を実現する。V-CUBE ユーザは利用者としての利便性を損なわずに安全性を強化できるようになる。

ブイキューブとベリサインでは、Web 会議システムなどのコミュニケーションサービスにおけるセキュリティ強化を今後も更に力を入れ、利用者が安心してサービスを利用できる環境を提供していくとしている。

製品・サービス動向-海外

ポリコム社、ユーザのビデオ会議導入促進のためのサービス開始

米ポリコム社は、ユーザのビデオ会議導入促進のための「Polycom Adoption Services(ポリコムアドプションサービス)」の開始を発表した。(米:9月6日、ポリコムジャパン:10月10日)

Polycom Adoption Services は、ビデオ会議導入ユーザの導入率や投資効果の向上を目的としたもので4つのサービスから構成される。

(1)「Adoption Consulting(アドプションコンサルティング)」:ポリコム社のコンサルタントがビジネスニーズや目的、技術の使用状況、個人々のニーズなどの調査やインタビューを行い、導入に向けてのフレームワークを作成する。これは後のソリューション設計に役立つもの。

(2)「Adoption Portal(アドプションポータル)」:顧客先でのトレーニングに代わる、カスタマイズの可能なオンライン情報ポータルの構築と提供を行う。そのポータルには、ビデオチュートリアル、ヒント集、FAQ など豊富な情報が提供される。

(3)「Adoption Campaign(アドプションキャンペーン)」:社内での利用促進のためのキャンペーン展開を支援。社員が利用に向かうよう“Go Video”というテーマを持たせて、バナー、ポスター、ビデオ映像、メールなどカスタマイズ可能な形で提供・支援する。

(4)「RealPresence Analytics(リアルプレゼンスアナリティクス)」:ユーザの使用状況、サービス品質、コスト傾向など

を分析し報告するサービス。

このサービスの最終目的は、社内にビデオコラボレーションの文化(a culture of collaboration)を根付かせること。そのためにビデオ会議導入にあたって検討すべきあらゆる点について総合的な視点(holistic approach)でこのコンサルティングサービスを提供するとしている。社内にビデオコラボレーションの文化を根付かせることが導入率や投資効果の向上にかかせないようだ。

VCRooms 社、G2J US 社の「MyEasyConnection」をベースにしたクラウド型テレビ会議サービスを開始

米 VCRooms 社は、クラウド型テレビ会議サービスを開始したと発表。(10月1日)

VCRooms 社は、米 G2J US 社のアライアンスパートナーで G2J US 社が提供するテレビ会議サービス「MyEasyConnection」をベースにクラウド型テレビ会議サービスとテレビ会議貸し会議室サービスを提供する。

この MyEasyConnection は、24時間7日いつでも利用可能なサービスで、テレビ会議の事前予約、会議管理、使用管理レポートなどの機能を提供している。また、シスコやポリコム、ライフサイズ、ラドビジョンなどとのテレビ会議システムとも相互接続が可能で、IP、ISDN、SIP などの通信ネットワークにも対応する。

ビジネス動向-海外

BT Conferencing 社と Dolby Laboratories 社、対面会議のような音響環境を実現する技術実験実施で協力

英 BT Conferencing 社は、米 Dolby Laboratories 社と協力して、対面会議のような音響環境を実現することで、電話会議をより生産性の高い効果的なものとする技術実験を行うと発表。(9月25日)

Dolby 社が持つ信号処理技術や音響心理に関する専門性と、ユニファイドコミュニケーション分野で BT が持つ世界レベ

ルの能力を組合せることで、電話会議の参加者をより“生産的な参加者 (productive participants)”にすることを目的としている。ドルビーボイス技術によって自然な会話が行える空間音響 (spatial audio) を提供することで、より生産性の高い会議が可能という。

なお、BT 社の MeetMe 会議サービスは、BT 社が提供する電話会議・テレビ会議サービスのひとつで、ユニファイドコミュニケーションソリューションである「BT One」ポートフォリオの一部を成している。従来は、TDM 方式による音声会議多地点機能を提供してきたが、現在は VoIP をベースとしたプラットフォームに更改されている。

Compunetix 社の CONTEX Summit、米国防省ネットワークでの運用が可能になる JITC 認定を受ける

米 Compunetix 社は、同社のハイエンド音声会議多地点システム装置「CONTEX Summit (コンテックスサミット)」が、JITC (Joint Interoperability Test Command) 認定を取得したと発表。(9 月 13 日)

JITC 認定によって、CONTEX Summit が、米国防総省が要求する相互運用性や情報保証に関する条件が満たされている事を保証されたことになる。これにより、米国防省ならびにアメリカ国防情報システム局 (DISA) の運営するネットワークインフラ (Defense Switched Network、DSN) での運用が可能になる。

認定には、DISA のエージェント機関である JITC (アリゾナ州) が CONTEX Summit の試験と評価を行った。

Glowpoint 社、テレビ会議貸し会議室サービスの Affinity VideoNet 社を買収、クラウドテレビ会議サービス市場での競争力強化を狙う

米 Glowpoint 社は、米 Affinity VideoNet 社の買収完了を発表した。(10 月 1 日)

クラウド型テレビ会議サービスならびにマネージドテレビ会議サービスを提供する Glowpoint 社が、テレビ会議貸し

会議室サービスを提供する Affinity VideoNet 社を買収したことで、「OpenVideo」プラットフォームを特長とする Glowpoint 社テレビ会議サービスの市場での競争力強化を狙う。

組織統合にかかわる手続き等は、前 Affinity VideoNet 社 CEO で、Glowpoint 社では、事業開発担当上級副社長に任命された Peter Holst 氏が担当する。統合された組織としての 2013 年の売上高ガイダンスは 400 万ドルという。

なお、今回の買収に関する金額は公開されていない。

ポリコム社と IBM Research 社、ビデオソリューションの共同開発事業の立ち上げ

米ポリコム社と米 IBM Research 社は、ビデオソリューションの共同開発事業の立ち上げを発表。(米:9 月 5 日、ポリコムジャパン:10 月 10 日)

ポリコム社と IBM Research 社は、クラウド技術や仮想化技術を活用して新たな「Polycom RealPresence」ビデオソリューションを共同開発する計画。

これは、プライベートクラウド、パブリッククラウド、ハイブリッドクラウドの各サービスでビデオサービス (Video as a Service) の利用を検討する企業が増加していることを受けたもの。

共同開発において、リッチプレゼンスや呼制御、相互接続などの技術を新たな方法で組み合わせたり、あるいは、応用させることで、生命保険やコールセンター、監視など業界毎に最適なソリューション (industry solutions) を開発できると期待している。

そこで最適なソリューションを開発する上で鍵になる概念が、「CEBP (Communications Enabled Business Processes)」という。この CEBP は、特定のコミュニケーションアプリケーションの活用によって、実現されたり、あるいは効率化されたりするビジネス活動を指している。

これから両社で開発されるソリューションは、将来ポリコム社から Polycom RealPresence ソリューションとして提供されることになる予定という。

ポリコム社、2012年第1四半期と第2四半期の2期連続で世界市場シェアを拡大

ポリコム社は、2012年第1四半期と第2四半期の2期連続で世界市場シェアを拡大し、2012年上半期に合計8%近くのシェア拡大を達成したと発表。(米:9月9日、ポリコムジャパン:10月10日)

IDC社、Synergy Research Group社、Wainhouse Research社が発表した四半期毎の市場調査レポートによると、2012年第2四半期の収益ベース市場シェアが、調査会社によって前期比4.4%から5.7%の間で拡大した。

各調査会社によるポリコム社の対前四半期成長率および市場シェア拡大状況

調査会社	2012Q1シェア Q/Q成長率	2012Q2シェア Q/Q成長率	2012前期 シェア拡大
Wainhouse	2.2%	5.7%	7.9%
Synergy	1.2%	4.4%	5.7%
IDC	0.7%	4.7%	5.4%

*ポリコム資料

この3社のレポートによると、最大2.2%の市場シェアを拡大した2012年第1四半期よりも、第2四半期はさらに拡大した。Wainhouse Research社のレポートによると、2012年上半期に市場シェアを8%近く拡大し、第2四半期現在の世界シェアは32%を越えた。

市場動向-国内

シード・プランニング、遠隔会議システム市場規模とテレビ会議メーカー販売ルート調査をまとめる

株式会社シード・プランニング(東京都文京区)は、遠隔会議システムの市場動向と販売ルートの調査を実施しその結果をまとめた。(10月2日)

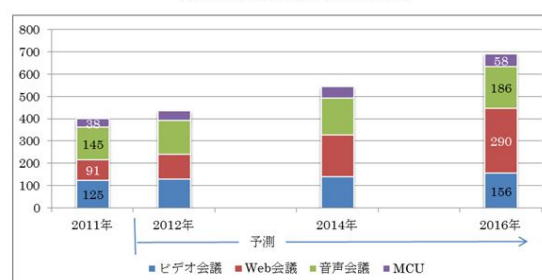
遠隔会議システムの市場規模については、2011年の400億円であったが、2016年には690億円に成長すると予想する。

また、新たに今回調査項目に加えた「ヘッドセット」は、ス

マートフォン、タブレット端末の普及に伴い、急速に市場が拡大し、ここ数年は年率130%~140%の伸びを示している。ヘッドセットは、従来は有線タイプのものが主流であったが、最近ではBluetoothタイプのものが売れ始めている。安価な製品も出始めている。

一方、ビデオ会議システムの販売ルートは、直販と1次、2次販売代理店ルートがある。ビデオ会議システムメーカー上位3社は代理店販売比率が100%、その他、上位3社以外は直販にも注力している。

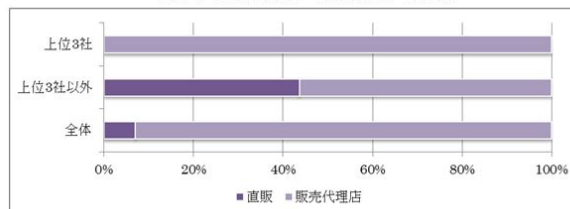
国内の遠隔会議市場規模(単位:億円)



(シード・プランニング作成)

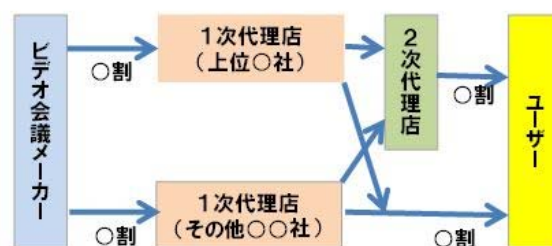
遠隔会議市場規模 (シード・プランニング資料)

国内ビデオ会議販売ルート割合(2011年、台数)



(シード・プランニング作成)

販売ルート割合 (シード・プランニング資料)



(シード・プランニング作成)

上位3社の販売ルート、メーカーによって扱い比率が変わる(シード・プランニング資料)

シード・プランニングによると、ここ数年、スマートフォンやタブレット端末が普及し、これらを用いた双方向の映像コミュニ

ケーションが、ビジネスやパーソナルを問わず増えてきており、クラウドサービスや新たなユニファイドコミュニケーション端末・サービスが注目されてきているという。

また一方で、販売面においても、端末単体販売にとどまらず、クラウド、接続サービス、映像配信サービス、データセンタービジネスとの連携も増え、ベンダーの位置づけがますます重要になってきている。加えて、双方向コミュニケーションで使用するスピーカーフォンやヘッドセットも重要性を増しているという。

そこで今回の調査では、調査対象品目に、スピーカーフォン、ヘッドフォンを新たに加えて市場規模予測を行うとともに、販売ルートに関して、ベンダーにヒアリングを行い明らかにした。調査は、主要企業の個別訪問ヒアリングおよび公表資料の収集・整理を通してまとめた。調査期間は、2012年6月から2012年9月まで。

本調査結果は、調査研究レポート「2012 ビデオコミュニケーション(ビデオ会議/Web 会議)の現状と流通調査～ベンダーの販売動向と流通ルート分析～」(税込み価格:126,000円、9月18日発刊)として販売している。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程:11月21日(水)、28日(水)

※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催

会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

いつでもどこでも仕事ができる! 「セキュアにBYOD」「タブレットでWeb 会議」で業務効率向上セミナー～スマートデバイスを活用して場所を選ばず業務を進める秘訣とは～

日時:11月26日(月) 14:30~17:25(14:00受付)

場所:タイム24ビル(東京都江東区)

主催:株式会社ブイキューブ、e-Jan ネットワークス株式会社、ソフトバンクテレコム株式会社

詳細・申込:

<https://softbanktelecom.smartmarketing.jp/public/seminar/view/85>

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、毎月2回業界ニュース(定期レポート)を1999年から発行しておりますが、この度、カタログスクウェアさんに、2003年から2011年までの定期レポートを1年毎に合冊していただきました。2012年は1号毎です。

また、先日8月4日には、これまでのPCからの閲覧に加えて、スマートフォンやタブレットからも閲覧できるようになりました。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2011年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/2012/

定期レポート(PDFファイル)は年間23号発行されておりますが、電子ブックによって1年分を一度にダウンロードできこれまでのように1号毎にPDFをダウンロードする必要はありません。もちろん今までのPDFもアーカイブしています。

電子ブック版は、本のページをめくるようにとても読みやすくなりましたし、また1年単位ですが全文検索もしやすくなりました。定期レポートの読者の皆さんにとっても良いのではないかと思います。

ちなみにこの定期レポートは私にとっては、遠隔会議のリサーチの一環としてまとめているものでもありますし、また、私自身の活動を広げていくための機会への窓口にもなっています。

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお問い合わせいたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

今年の定期レポートは、残りあと11月30日号と12月15日号となりました。12月末は年末年始のお休みとさせていただきます。

次号もよろしくお願い致します。

橋本啓介